

## 灯油

### 1. 概要

沸点 175～325℃の石油留分で、15～20%芳香族炭化水素が含まれている。  
小児の誤飲事故は冬ばかりでなく、春や秋の季節の変わり目にも多い。

### 2. 毒性

気道内に誤嚥しなければヒト経口推定致死量 90～120mL、誤嚥すれば数 mL  
以下(2)(3)

### 3. 症状

吸入：酩酊様の一過性の多幸感、胸部の焼けるような痛み、頭痛、嘔吐、傾眠、  
昏睡、呼吸停止  
経口：口腔・咽喉・胃の灼熱感、嘔吐、下痢、傾眠、昏睡、  
気道内誤嚥・・・過呼吸、チアノーゼ、頻脈、発熱、肺水腫、肺出血  
皮膚接触：接触性皮膚炎  
眼に入った場合：結膜炎

### 4. 処置

家庭で可能な処置

吐かせてはいけない（気道内に誤嚥する危険性大となるため）

医療機関での処置

大量摂取時に胃洗浄を行うときは誤嚥を防ぐ処置

流動パラフィン 30～100mL 投与（治療上の注意点参照）

吸着剤と下剤の投与

吸入時および誤嚥時・・・呼吸管理

化学性肺炎対策、対症療法

### 5. 確認事項

- 1) 摂取法：小児の事故の場合、直接灯油のポンプに口をつけていたか、こぼれたものを口にしていたか（ポンプの場合には、吸い込んだり誤嚥したりする可能性が高い）
- 2) 呼気臭：呼気中に灯油臭がするか
- 3) 患者の状態：嘔吐をしたか。吐物表面に油膜はみられたか。その他症状の有無

### 6. 情報提供時の要点

- 1) 誤嚥した可能性のある場合は、化学性肺炎を起こすおそれがあるので、すぐに受診を指示
- 2) 問い合わせ時に無症状であっても、誤嚥する確率が高く、数時間で肺炎を起こす可能性のあることを説明して受診を指示
- 3) 手についたものをなめたような場合、よく洗い、経過観察。嘔吐や発熱、呼吸の変化があれば受診を指示

### 7. 体内動態

吸収：揮発性が低いので、常温では蒸気で吸入することは少ない。  
消化管からの吸収は少ない

経皮吸収により腎障害を起こす危険があるとの報告あり(1)

## 8. 中毒学的薬理作用

中枢神経抑制作用、粘膜刺激作用

心筋の内因性カテコールアミンに対する感受性を高める

## 9. 治療上の注意点

- 1) エピネフリンの使用は不整脈や心室細動を誘発する危険があるので禁忌。  
心電図のモニター
- 2) 拮抗剤、解毒剤はない
- 3) 流動パラフィンの投与は、粘度の低い灯油の誤嚥を防ぎ、排泄を高めるので有用との説と、流動パラフィンが嘔吐を誘発し、誤嚥性肺炎を起こす危険性を高めるので禁忌という説がある
- 4) 活性炭は嘔吐を誘発するので禁忌という意見と、動物実験で灯油を吸着するので有効という報告がある
- 5) 立位腹部単純 X 線により胃内に 2 層の液層を認めることによって診断が可能。5mL 程度の摂取でも判断可能(1)。  
胸部 X 線による肺障害の診断重要
- 6) 白血球増多を除いては血液症状はまれ
- 7) 腎障害がなくても、尿中のアルブミン、糖、アセトンが陽性となることあり
- 8) 重症例では 2 時間から 24 時間で死亡

## 10. 参考文献

- (1) Clinical Toxicology of Commercial Products (1984)
- (2) 救急治療シリーズ中毒 (1985)
- (3) 救急中毒マニュアル (1984)

## 11. 作成日

19900215 Ver. 1.00

ID M70178\_0100\_2